

<若手監督を発掘してきた国内の映画祭の受賞・推薦作品が集結！>
第2回 Rising Filmmakers Project
次世代を拓く日本映画の才能を探して
開催のお知らせ

開催日：2020年2月14日(金)ー15日(土)

平素よりお世話になっております。

この度、国立映画アーカイブでは、「第2回 Rising Filmmakers Project 次世代を拓く日本映画の才能を探して」を開催する運びとなりました。次世代の日本映画を拓く若い才能を紹介することを目的とした本企画。今年度は、若手監督を発掘し続けてきた国内5つの映画祭の受賞・推薦作品を上映します。つきましては、ぜひとも貴媒体でご紹介いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



【上映作品】

- ①『されど青春の端くれ』監督：森田和樹
 ★ゆうばり国際ファンタスティック映画祭 オフシアター・コンペティション部門 グランプリ、シネガー・アワード
- ②『愛うつつ』監督：葉名恒星 ★カナザワ映画祭 期待の新人監督 入選
- ③『ミは未来のミ』監督：磯部鉄平
 ★SKIP シティ国際Dシネマ映画祭 SKIP シティアワード
- ④『おろかも』監督：芳賀俊、鈴木祥
 ★田辺・弁慶映画祭 コンペティション部門 弁慶グランプリ、キネマイスター賞、観客賞、俳優賞
- ⑤『おばけ』監督：中尾広道 ★ぴあフィルムフェスティバル PFF アワード グランプリ

【見どころ】

1：若手監督を発掘し続けてきた国内5つの映画祭の受賞・推薦作が集まる、“新しい”日本映画を一度に見られる絶好の機会
 劇映画界で活躍するコンペティション受賞者を数多く生み出してきた、各地の代表的な映画祭の受賞・推薦作品を上映。それぞれの映画祭の個性や、自主映画ならではの自由な表現を楽しむとともに、次世代の日本映画を拓く若い才能に出会えます。

2：各作品の上映後にゲストと監督のトークイベントを実施

昨年は、映画監督の白石和彌さん、深田晃司さん、山崎貴さん、行定勲さん、アクション監督の下村勇二さん、脚本家の向井康介さんが登壇し、監督とトークを繰り広げました。また、各作品の上映前には映画祭の担当者が作品を紹介します。

*ゲストの詳細は後日発表いたします。

*昨年のトークイベントのレポートを、こちら▼でお読みいただけます。

https://www.nfaj.go.jp/learn/rfp/rfp2018_talks/

3：企画の終わりに、5作品の監督が一堂に会するトークイベントを開催 *入場無料

2月15日(土) 16:50からは、全上映作品の監督が登壇し、今後の活動などを語るトークイベントを行います。

■イベント名称：第2回 Rising Filmmakers Project 次世代を拓く日本映画の才能を探して

■上映日時：2020年2月14日(金) -15日(土)

■会場：国立映画アーカイブ 小ホール(地下1階) 定員：151名(各回入替制・全席自由席)

■料金(前売券・当日券)：一般520円/高校生・大学生・シニア(65歳以上)310円/小・中学生100円

*障害者(付添者は原則1名まで)、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは当日券のみあり・無料

【前売券発売】1月18日(土)10時よりチケットぴあにて全上映回の前売券(全席自由席・各50席分)を販売

【Pコード：550-848】

■掲載用のお問い合わせ先：03-5777-8600(ハローダイヤル) 国立映画アーカイブのホームページ→www.nfaj.go.jp

■本特集の詳細→www.nfaj.go.jp/exhibition/rfp2/

【上映作品紹介 (全5作品)】

2/14 (金)

※右の時間は、上映前・上映後のトーク時間を含みます。

『されど青春の端くれ』(68分・Blu-ray・カラー・2018年)

14:00-15:40

ゆうばり国際ファンタスティック映画祭 オフシアター・コンペティション部門 グランプリ、シネガー・アワード

北朝鮮からミサイルが発射された。だけど、僕たち3人は変わらずに毎日一緒に遊んでふざけている。

監督: 森田 和樹 (もりた・かずき)

1988年生まれ、鳥取県出身。ニューシネマワークショップ実習作品『春を殺して』(16)が全国多数の映画祭で入選・受賞。卒業後、『戯言』(17)、『メイキング』(17)、そして『されど青春の端くれ』(18)を制作。新作『ファンファーレが鳴り響く』の劇場公開を控えている。



ゆうばり国際ファンタスティック映画祭 (1990年から29回開催)

ファンタスティック映画を対象とした映画祭。ファンタランド大賞(観客賞)を獲得した『カメラを止めるな!』はその後、一大旋風を巻き起こした。井口昇、真利子哲也、入江悠、松本花奈などが輩出。

『愛うつつ』(70分・ProRes・カラー・2018年)

16:45-18:25

カナザワ映画祭 期待の新人監督 入選

愛してるからこそ抱けない男と愛してるからこそ抱かれない女の、愛とSEXの形をめぐる人間ドラマ。監督自らの経験を基に執筆。

監督: 葉名 恒星 (はな・こうせい)

1992年生まれ、広島県出身。ニューシネマワークショップクリエイターコースを受講。現在、WEB、テレビCMなどの制作、ディレクター。

カナザワ映画祭 (2007年から13回開催)

北陸地方を代表する映画祭。若手監督作品のコンペ「期待の新人監督」は、粗削りながらも作家の衝動を感じさせる作品が並び、内藤瑛亮、小林勇貴、二宮健、大野大輔、岩切一空、阪元裕吾などが輩出。



『ミは未来のミ』(60分・HDCAM・カラー・英語字幕付・2019年)

19:25-20:55

SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 SKIP シティアワード

高3の拓也は秋になっても進路を決めかね、焦りを感じながらもダラダラと毎日を過ごしていた。ある日、仲良しグループの高木が交通事故に遭う。拓也は皆で交わしたある約束を果たすため仲間を集める。

監督: 磯部 鉄平 (いそべ・てつぺい)

1978年生まれ、大阪府出身。ビジュアルアーツ専門学校大阪卒業。小谷忠典監督『フリーダ・カーロの遺品』(15)の海外撮影に参加。帰国後は企業VP、MVのディレクターや、インディーズ映画のスタッフとして活動。2016年から自主映画製作を開始。『予定は未定』(18)は、SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2018にて短編部門優秀作品賞を受賞。



©八王子日本閣

SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 (2004年から16回開催)

デジタルで撮影・編集された映画のみを扱う国際映画祭。受賞後の支援も厚く、数々の作品を海外映画祭へ紹介。白石和彌、中野量太、坂下雄一郎、上田慎一郎、片山慎三などが輩出。

2/15 (土)

『おろかも』 (96分・ProRes・カラー・2019年)

11:40-13:50

田辺・弁慶映画祭 コンペティション部門 弁慶グランプリ、キネマイスター賞、観客賞、俳優賞 (笠松七海、村田唯)

高校生の洋子は結婚を目前に控えた兄の健治が、美沙という女性と浮気をしている現場を目撃する。衝動と好奇心に突き動かされて美沙と対峙した洋子は、美沙の独特の柔らかさと強さ、脆さに惹かれていく。2人の女性の奇妙な共犯関係が始まる。

監督：芳賀俊 (はが・たかし)

1988年生まれ、宮城県出身。日本大学芸術学部卒業後、『舞妓はレディ』(14)、『モリのある場所』(18)等の撮影助手を務める。撮影を務めた作品に『ボーダー』(11)、『空(カラ)の味』(16)がある。本作が初監督作品。

監督：鈴木祥 (すずき・しょう)

1987年生まれ、埼玉県出身。日本大学芸術学部卒業。卒業制作の監督作品『ボーダー』(11)がうたごえだ城下町映画祭審査員賞、映文連アワード2011優秀作品賞を受賞。『空(カラ)の味』(16)等の助監督を務める。本作が初の長篇監督作品。



田辺・弁慶映画祭 (2007年から13回開催)

近畿圏で注目株の映画祭。多くの映画ファンが集い、上映後のトークを盛り上げる。受賞作品は、テアトル新宿、シネ・リーブル梅田で上映される。沖田修一、瀬田なつき、岨手由貴子、今泉力哉などが輩出。

『おばけ』 (62分・ProRes・カラー・2019年)

15:10-16:45

ぴあフィルムフェスティバル PFF アワード グランプリ

1人で自主映画をつくり続ける監督と、彼を見守るはるか宇宙の星たち。誰も知らないささやかな映画制作の過程は大きな宇宙へとつながってゆく。ぴあフィルムフェスティバルでの上映後に再編集された版で上映。

監督：中尾広道 (なかお・ひろみち)

1979年生まれ、大阪府出身。友人の撮影を手伝ったことをきっかけに、自分でも映画を撮り始める。可能な限り、自分一人の力でつくるスタイルで作品制作を続けている。過去のPFFアワードでも『船』(15)、『風船』(17)が入選。

ぴあフィルムフェスティバル (1977年から41回開催)

若手監督の登竜門として名高い映画祭。「PFF スカラシップ」など受賞者へ様々な支援を行っており、現在活躍する監督の中に出身者は多い。近年は、石井裕也、山戸結希、二ノ宮隆太郎などが輩出。



トークイベント

16:50-17:50 (予定)

5作品の監督たちが一堂に集い、今後の活動などを語ります。質疑応答あり。

入場無料。

※『おばけ』の上映をご覧になった方は、そのまま参加することができます。

※トークのみの参加もできます。



小ホール